



道満の歴史を調べるには

〒335-0021 戸田市大字新曾1707 TEL442-2800 HP <https://library.toda.saitama.jp/>

戸田市域の西側には、かつて道満どうまんという名の集落がありました。道満という地名は、現在も「彩湖・道満グリーンパーク」という名称で残っていますが、いにしへの道満はどのような土地だったのでしょうか。

今回は、その歴史について調べるための資料を紹介します。

江戸時代の道満について調べる

■道満を含む大野地域には、荒川の出水しゅつすいに備えて水除け堤みずよづつみがありました。残された文献から、江戸時代には堤の普請ふしんをめぐる荒川上流の村々と紛争になったことが知られています。

☆戸田市域の歴史を調べる場合は、郷土戸田の棚にある基本的な資料を見てみましょう。

例えば「江戸時代の道満」については、下記の資料で調べることができます。

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『戸田市史』 通史編 上	戸田市	1986	T213.4	本館2階・郷土戸田
	p.991-997「大野新田堤一件」 どのような紛争だったのか、詳しい内容が分かります。当時の文献の写真も紹介されています。			
『戸田市史』 資料編 3	戸田市	1985	T213.4	本館2階・郷土戸田
	以下のページで一連の紛争に関する文献を活字版で見ることができます。 p.88-94「大野新田堤一件証拠物写」 p.100-102「荒川水除小堤取払一件につき願書」ほか p.107-124「大野新田堤一件書類写」ほか p.144-156「荒川囲堤取払出入一件につき申上書」ほか			
『彩湖』 第20回特別展	戸田市立郷土博物館	2004	T069.0	本館2階・郷土戸田
	p.14-15「江戸時代の彩湖周辺」 文献や絵図等展示資料の写真を見ることができます。大野新田の水除け堤に関する紛争の概要も載っています。			
『戸田市史年表』	戸田市立郷土博物館	1991	T213.4	本館2階・郷土戸田
	p.51「天明元年1月」、p.56「文化元年8月」及びp.61-63 大野新田の水除け堤に関する紛争の経過を年表から読取ることができます。			

河岸と渡しについて調べる

■道満地域には、かつて「道満河岸」と「道満の渡し」がありました。「道満河岸」は付近の村々の物資流通の港として、「道満の渡し」は蕨方面と志木・川越方面とを結ぶ交通路として利用されてきました。

☆「道満河岸」は、対岸に地蔵堂があったことから「地蔵河岸」「地蔵木河岸」とも呼ばれていました。調査の際は名称が数通りあるので注意しましょう。又当時の道満地区は、内谷村の一部でしたので埼玉県や旧浦和市に関する資料も確認するとよいでしょう。

【戸田市に関する資料】

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『戸田市史』民俗編	戸田市	1983	T213.4	本館2階・郷土戸田
	p.778 「渡船」 「道満の渡し」についての概要が分かります。			
『戸田河岸と荒川の舟運』 第19回特別展	戸田市立郷土博物館	2003	T069.0	本館2階・郷土戸田
	p.34 「道満河岸」 「道満河岸」に関する積札や書状の写真を見ることができます。			
『美女木下笹目の民俗』 市史調査報告書第十集	戸田市	1985	T213.4	本館2階・郷土戸田
	p.64-65 「渡舟」「舟運」 『戸田市史』の編さんにもない調査した事柄をまとめた報告書です。「道満の渡し」「道満河岸」どちらも市史より詳しい内容を調べることができます。			
『妙巖寺抄』	さきたま出版会	2015	T188.8	本館2階・郷土戸田
	p.91-93 「道満の渡し」 妙巖寺は美女木にある寺です。この本は妙巖寺の住職が寺や地域のことを書き記したもので、道満の渡しについても言及しています。			
『美笹村小史』（複製）	美笹村役場	1953	T213.4	本館2階・郷土戸田
	p.25-26 「地蔵河岸渡」 『新編武蔵風土記稿』「下内間木村」-「渡津」に書かれている「地蔵河岸」についての内容を紹介しています。			
『戸田の地名』 とだ文庫	戸田市	1995	T213.4	本館2階・郷土戸田
	p.83-85 「重瀬・堤外」 重瀬・堤外地区の地名について由来を紹介している中で「道満の渡し」「道満河岸」についても言及しています。			

【荒川に関する資料】

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『荒川』 人文 I	埼玉県	1987	T517.2	本館2階・郷土特集棚
	p.520 「荒川と渡し」内 第1表 「荒川の渡し場関係資料」一覧表に「地蔵木の渡し」の名があります。			

『荒川』 人文Ⅱ	埼玉県	1988	T517.2	本館2階・郷土特集棚
	p.158「河岸場の変遷 荒川」内 第1表 江戸及び明治時代の河岸場一覧表に「道満（地蔵）」の名があります。			
	p.175「荒川本流の河岸場の変遷」内 第1表 江戸時代の河岸場一覧表に「道満（地蔵）」の名があります。			
	p.191「河岸場の復元」内 「荒川本流河岸場一覧表」 河岸場の所在地一覧表に「道満（地蔵）」の名があります。			
『荒川の水運』 歴史の道調査報告書第七集	埼玉県県政情報資料室	1987	T684	本館2階・郷土特集棚
	p.16-17「道満河岸」 「道満河岸」についての概要が分かります。			
『利根川荒川事典』	国書刊行会	2004	T517.2	本館2階・郷土特集棚
	p.252「道満（地蔵）河岸」 「道満河岸」について概要が分かります。			
『大河紀行 荒川』	白山書房	2012	T517.2	本館2階・郷土特集棚
	p.164-165「道満河岸のこと」 「道満河岸」があった当時の道満の様子を紹介しています。			

【埼玉県に関する資料】

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『浦和市史』民俗編	浦和市	1980	T213.4	本館2階・さいたま
	p.317-318「道満河岸（地蔵河岸）」 「道満河岸」についての概要が分かります。			
『日本歴史地名大系』 11 埼玉県の地名	平凡社	1993	R291.0	本館2階・参考資料室
	p.148「内谷村」 「道満河岸」「道満の渡し」についての概要が分かります。			
『武蔵国郡村誌』2	埼玉県立図書館	1954	T291.3	本館2階・郷土埼玉
	p.108「内谷村」 「川堀」及び「道路」に「道満の渡し」についての記述があります。			
『新編武蔵風土記稿』 7	雄山閣	1996	T291.3	本館2階・郷土埼玉
	p.80「下内間木村」 「渡津」に「地蔵木の渡し」についての記述があります。			
『新編武蔵風土記稿』 8	雄山閣	1996	T291.3	本館2階・郷土埼玉
	p.139「内谷村」 「山川」に「地蔵河岸」及び「地蔵木の渡し」についての記述があります。			

集落の移転について調べる

■大正から昭和の時代にかけて行われた荒川の改修工事にもない道満地域の人々は、住み慣れた土地を離れることになりました。

☆集落の移転について調べる場合は、郷土戸田の棚にある基本的な資料を見てみましょう。

例えば「集落の移転」については、下記の資料で調べることができます。

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『美女木下笹目の民俗』	戸田市	1985	T213.4	本館2階・郷土戸田
	p.80-100「堤外地の民家」 荒川河川改修工事にもなう民家の移転について詳細が分かります。			
『戸田市史』 通史編 下	戸田市	1987	T213.4	本館2階・郷土戸田
	p.367「堤外民家の移転」 荒川河川改修工事にもなう民家の移転について概要が分かります。			
『戸田市史』 民俗編	戸田市	1983	T213.4	本館2階・郷土戸田
	p.772-778「堤外民家の移転」 荒川河川改修工事にもなう民家の移転について重瀬地区の事例が紹介されています。その中で道満地区の民家の写真が使用されています。			
『新曾・美女木の移り 変り』	櫻井能武男	1986	T213.4	本館2階・郷土戸田
	p.45-49「明治以後の荒川の改修 道満の人々」 児童向けに作成された資料です。荒川の出水に悩まされた道満の人々の暮らしの様子が紹介されています。			
『戸田市史年表』	戸田市立郷土博物館	1991	T213.4	本館2階・郷土戸田
	p.78「大正9年」、p.107「昭和26年」、p.109「昭和28年」及び p.111「昭和29年」 民家移転の経過を年表から読取ることができます。			
『彩湖』 第20回特別展	戸田市立郷土博物館	2004	T069.0	本館2階・郷土戸田
	p.28-29「昭和初期の彩湖周辺」 民家の分布図、移転記念碑の写真が掲載されています。			

☆「集落の移転」については、荒川及び埼玉県に関する資料から調べることもできます。

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『荒川』 人文Ⅱ	埼玉県	1988	T517.2	本館2階・郷土特集棚
	p.317-330「集落立地の変遷」内「美女木・下笹目地区」 荒川河川改修工事にもなう民家の移転について詳細が分かります。			
『埼玉縣市町村誌』	埼玉県	1973	T291.3	本館2階・郷土埼玉
	p.39「移転記念碑」 昭和29年、美笹村役場に建立された移転記念碑に刻まれた文字の全文を見ることが出来ます。			

